SCJ 57

スリランカ

子どもの元気な声が聞こえる

幼い子どものケア事業

スタッフからの便り









ここには、
子どもたちがやって来る。
元気いっぱいの子どももいれば、
心に傷を負った子どももいる。
内戦で家族や友だちを失った子、
屋根が吹き飛ばされたままの家に住む子、
戦争の傷をお酒と暴力でまぎらす親を持つ子、
障がいのある子がやって来る。

そして、

ギッコンバッタン、ギッコンバッタン、
キーコーキーコー、スィースィー。

「うわ〜い」

ここは、子どもたちの
憩いの場になっている。
（もともとは紛争によって荒れ果てたとても
危険な場所だった。）

思いっきり走れる、転んでもけがをしない、
友だちとふざけまくる。
そう、安心して遊べること。
小さい子どもにとっても、親にとっても、
いちばんうれしいこと。

2010年6月　スリランカ／トリンコマレ
SCJの支援する幼児教室 屋外遊具で遊ぶ子どもたち

子どもたちが、安心して元気に遊び学べるように

――今回は、スリランカ東部で実施している幼児教育支援のことをお伝えします



1. 内戦の激戦地だったスリランカ東部のトリンコマレ。30年近くに及んだ内戦が終結し、別の土地に避難していた住民の多くが故郷へ戻ってきました。



2. 荒廃した土地での再出発。新しい命も生まれています。収入と食料を得る手段を確保し、家を建て直し、生活を取り戻すため、家族は必死です。



3. 幼い子どもたちも新しい人生のスタート。日中、親が働いている間、集まって遊び学ぶことのできる安全な場所を必要としています。



4. でも、あまりに長く続いた内戦のために幼児教室の建物は老朽化が激しく危険な状態。子どもたちの大好きな遊具もさびついたまま。



5. 子どもたちは、直射日光があたり、砂ぼこりの舞う中、ゴザの上で授業を受けていました。



6. SCJは、2008年から幼児教室の修繕や改築など、幼児教育の支援を実施。もともと教育熱心な母親たちもニーズがいっぱいです。



7. 地元住民から建築資材や植木の寄付なども得ながら、どんどん整えられていく教室。これまでにSCJが整備した教室は東部に29棟あります。



8. 完成した幼児教室の1棟。屋外は子どもたちがケガをしないよう、瓦れきを取り除いて整地。屋外遊具もそろえました。



9. 開校を知らせに家庭訪問。障がいを持つワギーシャの家にはスタッフとボランティアで何度も訪問。彼女を家の外へ出したがらなかった母親も、最後は娘を教室に通わせることに決めました。



10. そして開校式の日。子どもと親、教員はもちろん、地元住民や政府関係者も集まって開校を祝いました。



11. 制服、靴、かばん、文房具の配布。「同じものを持てば、貧富の差でいじめられない」「裸足でからかわれ、教室に行きたがらなかった子どもが元気に通うようになった」と親から感謝の声。



12. 幼児教室は週5日。朝8時半から11時半まで。地元のお祈りと体操、歌やダンス、お絵描きや簡単な数字の勉強などをして過ごします。



13. 子どもたちは歌やダンスが大好き。地域のイベントでは、いつもの練習の成果を発表します。



14. そして10時半になると子どもたちはワクワク。どうしてかと言うと、みんな一列に並んで手を洗った後は…



15. 栄養補助のための給食を食べるからです。メニューは豆類、卵、ビスケットなど。約3割の子どもに成長阻害の症状が見られるトリンコマレでは、栄養の改善も子どもにとって大切です。



16. この給食の調理や教室の清掃を担当しているのが母親や地元住民からなる運営委員会。課題なども話し合います。



17. 現在の課題の1つは水。今のところ、子どもたちは家から水筒を持ってきます。これから井戸建設と水環境の整備に力を入れていきたいと考えています。



18. 右から、教員、ボランティア、SCスタッフ。そして子どもたち。みんなの幼児教室をみんなでつくっていきます。

SCはセーブ・ザ・チルドレンの略称です。
SCJはセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの略称です。

写真のクレジット：Menaca Calyaneratne(2, 12,14)

スタッフ便り――子どもたちの話を母親たちが聞かせてくれました

スリランカ
山本俊輔



「4歳の娘の変化に驚かされっぱなしだわ。教室に通う前はとても恥ずかしがりやで、人前でしゃべるのが苦手だったけれど、今ではいろんなことに興味を持つようになって、私を質問攻めにするの。娘が毎日の教室で本当にたくさんのことを吸収しているみたいでうれしい」

「5歳になる娘は教室が終わるとすぐ私のところに飛んできて、その日に習ったこと、友だちと遊んだこと、みんなで食べたおやつ（栄養補助食）のことを楽しそうに教えてくれるの。そんな娘に私たちもとても励まされていると思う。娘の笑顔が家族みんなを笑顔にしてくれるわ」

幼いわが子の成長に目を細め、彼らの幸せを願い、その将来に思いを馳せる親の気持ちは、日本でもスリランカでも変わりません。事業地を訪問するたびに「せめて子どもたちには平和で希望に満ちた時代であってほしい」という親たちの切実な願いが伝わってきます。

しかし内戦ですべてを失った人々にとって「ゼロからの再出発」は困難の連続です。かつて地平線まで青々と広がっていた水田は荒れ果て、水路や井戸の水も枯れたままです。SCや政府による生計支援事業も、支援を必要とする人々すべてをカバーするには及ばず、日々の暮らしに精一杯という家族がほとんどです。内戦で肉親を失った悲しみや貧困の深淵に立ちすくみ、お酒や暴力で気を紛らわす大人もいます。

こうした厳しい環境にいる子どもたち、大人たちを支える取り組みは、もちろんSC単独で出来るものではありません。県知事や児童福祉局、教育局、保健局、スリランカのNGOと協力しながら幼児教育運営委員を始めとする地域社会再生のための仕組みを作り、育てていくことが不可欠です。

「この教室は私たちの手でしっかり育てていきたい。いずれは他の村の模範となるような教室にしたい」

幼児教育支援をきっかけに大人たちが未来への勇気と自信を取り戻すことが出来れば、平和で希望に満ちた次の時代に、子どもたちも一歩近づくことができるのではないかと考えています。

◉スリランカ民主社会主義共和国

30年近くに及んだ内戦が終結したスリランカは、復興の途上にあります。総人口の3割（580万人）が18歳以下の子どもで、小学校の就学率は98％。出生100人あたり15人が5歳の誕生日を迎えられずに亡くなっています。（出典：The State of World's Children 2010ほか）

◉スリランカでのセーブ・ザ・チルドレンの活動

SCJは北部、東部、南部で事業を展開。内戦終了まもない北部ではJPFによる助成を受け、避難生活や再定住直後の困難に直面する子どもとその家族を支援。東部では、避難民の再定住地域を中心に就学前教育支援を実施。母親の乳幼児の栄養に関する理解の促進や、就学前教育の環境整備、教員の能力向上に力を入れています。また、南部では紅茶プランテーション地域において子どもにやさしい学習環境づくりのための教員研修や校舎修復などの事業を実施中。



みんなの声

"SOAP"※の活動が広くみんなに伝わりますように

"SOAP"ボランティア　たかはしなな

この春、SCJのホームページで、デザイナー／イラストレーターのボランティア募集の記事を見つけました。日頃から私に出来ることはないかと思っていたので、問い合わせをきっかけに"SOAP"デザインチームに参加しています。"SOAP"という言葉も活動も知りませんでしたし、物があふれる日本で子どもの貧困があるなど思ってもいませんでした。物質的な貧困だけでなく、心や気持ちの内面的な貧困もあることを知りました。

普段、子ども向けの雑誌や絵本などの仕事で「かわいい、楽しい、うれしい、幸せ」などの感情ばかり表現してきましたが、この活動を生かして今後はもう少し違う捉え方もしていきたいと思います。"SOAP"の活動が広くみんなに伝わることを願っています。

＊　＊　＊

"SOAP"は日本の子どもの貧困問題への取り組み"Speaking Out Against Poverty"の略。裏表紙のロゴは、たかはしさんがデザインしました。

子どもが生まれます

SCJ映像制作　荒木飛雄馬

子どもが生まれます。父になります。この子は今まさに私の手のひらを妻の胎内から可能な限りの力で蹴り上げてきます。その力強さは微笑ましいです。しかし、時にその小ささや弱さを感じ、命のもろさを覚えるのも事実です。

SCJに関わって早4年。様々な映像を作らせて頂いています。その中で、紛争や貧困からくる虐待や教育の問題などに触れる機会も多く、子どもが元気に育つか、短命で去るかは、「私たち大人の付き合い方ひとつで決まるんだな」とふと思う瞬間が増えました。それでも私は普通の男です。我が子との楽しい未来を考えます。かいじゅうごっこしたり、一緒にゴロ寝したり、家族みんなでバカやって笑い転げて…そんな未来。こんな平凡な未来さえ迎えることが出来ない子どもが世界にはたくさんいます。だから、どんな子どもにもそんな未来が来て欲しい。胎内でスヤスヤ眠る我が子の寝返りを手のひらで感じるたびに私はそう願っています。

あたたかいご支援、ありがとうございます。

今回ご紹介したスリランカの「東部トリンコマレ県における幼い子どものケア事業」について、これまでの支援実績の途中報告（2009年9月～2010年6月）をお伝えします。

【支援地】スリランカ東部 トリンコマレ県
【支援の対象者】0歳から2歳の乳幼児170人とその家族183世帯。3歳から5歳までの子ども912人。幼児教室の教員58人。
【活動金額】約1,900万円（初年度分のみ）
【支援の途中成果】幼児教室の環境を整備・改善して栄養や衛生面でのケアを適切に行えるようしたことにより、これまで障がいなどで早期幼児教育に参加していなかった子どもたちも幼児教室に参加するようになり、事業開始後1年で活動に参加する子どもの数が33%増えた（686人から912人に増加）。
【主な支援活動】環境整備：11ヶ所の幼児教室を建設・修復。21ヶ所に屋外・屋内遊具を提供。
衛　　生：8ヶ所の幼児教室でトイレを設置・修復。
栄養改善：29ヶ所の幼児教室で栄養補助食を提供し、健康診断を実施。
研修の実施：幼児教室の教員、女性ボランティア、現地NGOスタッフ計17人に研修を実施。女性ボランティアは、支援対象地域で乳幼児のいる世帯を家庭訪問し、乳幼児やその家族の生活状況、家庭環境について調査、母親に対して家庭内で実践できる栄養・衛生に関するアドバイスを行った。
※外務省/日本NGO連携無償資金協力の助成を受けています。

「みんなの声」募集

文章の長さは問いません。郵便か電子メールでお送りください。氏名とご職業の明記をお願いします。なお原稿は返却いたしません。掲載の場合は一部編集させていただくことがあります。実名掲載が不可の際、一筆お書き添えください。送り先は裏表紙、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ニュースレター編集係。メールアドレスはvoice@savechildren.or.jpです。いただきました個人情報は責任を持って厳重に管理させていただきます。

Save the Children JAPAN

✻ 最近の出来事＆お伝えしたいこと



第２３回 セーブ・ザ・チルドレン チャリティ ディナーを開催しました

9月27日、「第２３回 セーブ・ザ・チルドレン チャリティ ディナー」をグランド ハイアット 東京（港区六本木）で開催しました。当日は、秋篠宮妃殿下のご来臨を賜り、子どもの支援活動に賛同する320名がチャリティの一夜に集いました。今年は、協賛社であるMHD モエ ヘネシー ディアジオとブルガリ ジャパンのご協力を得て、チャリティオークションの収益全額3,617,000円もご寄付いただきました。

日本の子どもの貧困解決に向けて、子どもたちや大人の声が集まっています！

日本の子どもの貧困問題への取組み“SOAP”の一環として、大人を対象とした全国意識アンケート調査を実施しました。その結果、回答者の９１％が日本の子どもの貧困を問題視し、多くが、貧困が最も影響を与える分野として「教育」や「心理」を挙げました。現在、子どもたち自身へのヒアリング調査も行っています。これらを通じて集まったみなさんの声を今後、政策提言に活かしていきます！→ http://www.savechildren.or.jp/ers/soap



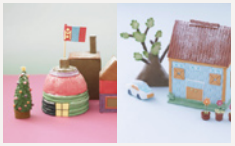
南スーダンで子どもと母親の栄養改善事業を開始しました

ジャパン・プラットフォーム（JPF）より約8,600万円の助成を受け、南スーダン東エクアトリア州で、子どもと母親の栄養改善事業を９月１日より開始しました。合併症を伴う栄養不良の子どもには医療サービスを届け、合併症のない栄養不良の子どもやその母親には、栄養補助食などの配布や定期健診を実施しています。また、コミュニティを対象に栄養改善教育を行い、住民の意識啓発を促し、子どもたちの持続的な栄養改善を目指しています。　写真：Susan Warner



イケアのソフトトイ・キャンペーン、11月1日～1月3日まで実施中

スウェーデン発のホームファニシング・カンパニー イケアの各店舗では、２０１０年１１月１日から２０１１年１月３日の期間、ソフトトイ・キャンペーン「子どもたちに教育を受けるチャンスを！」が実施され、ソフトトイ１個の売り上げあたり１ユーロ（約１１０円）が、セーブ・ザ・チルドレンとユニセフが世界２２ヶ国で実施する教育プロジェクトに寄付されます。ぜひご協力ください。→ http://www.ikea.com/jp/ja/



伊勢丹が、My Dream House「お菓子の家チャリティプロジェクト」を企画くださいました

まもなくやって来るクリスマスに合わせ、伊勢丹新宿店のカフェ・エ・シュクレが企画してくださったのは、「お菓子の家チャリティプロジェクト」。SCの5つの活動国の子どもたちが「My Dream House」の題で描いたそれぞれの国の家を、5ブランドのシェフがお菓子で再現。売り上げの一部をSCへ寄付くださいます。お菓子の予約は12月6日まで。店頭で受け取ることができる方のみになりますが、ご興味のある方はぜひお買い求めください。→ http://www.isetan.co.jp/cake

各ホテルが来るクリスマスに合わせ、SCJへのチャリティを企画くださいました

●オリエンタルホテル東京ベイは１２月２６日まで、ホテルロビーに設置した高さ4．5mの「トイズツリー」を飾るぬいぐるみの収益の一部を寄付くださいます。●グランド ハイアット 東京は１２月２２日～２５日まで、ホテルロビーにて専属カメラマンによるお客様の写真撮影を行い、撮影代の一部を寄付くださいます。●リゾートトラスト株式会社は、リゾートクリスマスプラン（１２月１日～２５日）で宿泊されるお客様１名につき５０円を寄付くださいます。

＜編集後記＞

１年を振り返る時期です。私が今年１番うれしかった思い出は、ベトナム・トゥアン村のOPPAI PROJECTの育児教室に参加させてもらった時のこと。村中の子どもや大人が集まる中、１人の男性がこんな歌を歌ってくれました「♪赤ちゃん赤ちゃん、お父さんは赤ちゃんが好き。だって赤ちゃんの顔はお父さんにそっくりだから。赤ちゃん赤ちゃん、お母さんは赤ちゃんが好き。だって赤ちゃんの顔はお母さんにとっても似てるから♪」。歌い終わった瞬間、その場にいた子どもたちが満面の笑みになり、拍手が沸き起こりました。その幸せで柔らかな空気を感じることができたこと。それが私の１番の思い出です。（岡田茜）

【この冊子について】皆さまのご支援が子どもたちのためにどのように活かされ、何をもたらしたかをお伝えしたい。そして、子どもたちだけでなく、スタッフやSCJに関わるすべての人々のことを皆さまの近くに感じて欲しい――。この冊子は、私たちのそんな願いを形にしたものです。

発行：社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
ご支援に関するお問い合わせ：03-6859-0068（平日 9：30-18：00）
印刷協力：日興製版印刷株式会社